

会長挨拶



“国際港湾協会 (IAPH, the International Association of Ports and Harbors) は、国際的な港湾団体で、Consultative Status(国連の諮問資格)を持ち、世界の主要な港湾は、その会員になっております。加えて、事務局が日本にある数少ない国際関係機関です。

IAPH のモットーは、2012 年の理事会で改正され、「世界の港湾の相互協力と港湾界の向上を目指す世界港湾フォーラム」となりました。このモットーのもと、港湾同士の交流を深めるとともに、国連などの場で港湾の共通の利益のために発言しております。

港湾をめぐる世界の動静に関する調査研究もその活動の一環です。

IAPH は 2012 年には創設 57 年目を迎えました。現在、正会員である港湾は約 190 港、90 カ国に及んでおります。このほか賛助会員として、150 以上の海運、港運、倉庫、港湾関連製造業、港湾団体、港湾関連研究機関などが参加しております。会員の港湾で取り扱われるコンテナ貨物は、世界全体の約 8 割を占め、貨物量全体でも 6 割を占めております。港湾経営者にとっては、IAPH は絶好の情報収集、交流の場です。

日本は IAPH の創設に主導的な役割をはたしました。1952 年、神戸で開かれた港湾の世界会議で、世界の港湾のための常設の機関の創設が決議されました。これに引き続き、1955 年には正式な設立総会の開催にこぎつけました。IAPH の設立総会はアメリカのロスアンゼルスで行われ、初代会長はカナダ人がなりました。

一方、設立に至る経緯を踏まえ、IAPH の事務局は東京におかれることになりました。事務総長は歴代日本人が務めております。事務局員も日本人です。

日本の会員の数は、各国の中で最大です。納入する会費も最大となっております。IAPH は会費を主たる収入源としておりますので、これは大きな意味をもちます。

また、日本は国際港湾協会協力財団を設立し、維持しています。この財団は、文字通り IAPH の維持発展に協力するための財団ですが、日本国内の公益法人です。為替変動などで IAPH の財政状況が悪化したときに、IAPH の本体に財政的援助を行うことがこの財団法人の重要な任務となっています。

さて、IAPH 日本会議の役割国際港湾協会日本会議は、2003 年 4 月 22 日に設立されました。その役割は、2 つあります。

第 1 の役割は、日本人が IAPH に人的に貢献することです。活動家になりうる有能な人は、日本には大勢います。しかし、世界中に広く展開する IAPH 活動に、活動家が参画するには、組織的、資金的な条件整備が必要です。この日本会議は、活動家が日本を代表して、IAPH 活動に参画しやすくする仕組みを有しています。

第 2 の役割は、日本が IAPH から受益することです。日本会議は、活動家からの報告会を

開催するほか、年に 3 回機関誌「IAPH フォーラム」を発行しております。これらを通じて、世界の港湾が直面する諸問題とそれへの対処の方向を、日本語で把握することができます。

このたび、長年 IAPH 日本会議の会長を勤めて頂きました染谷会長に代わりまして中尾が会長に就任しました。欧米を中心として各国の市場開放が進み、港湾も国際標準に見合う仕様、規格が求められ、グローバル化の波が我が国の様々な分野に変化を求められる時代となりました。このような大きなうねりの中で、我が国の港湾は生き残りをかけて、どのような生き方をすればよいか問われる時代となりました。

IAPH 日本会議では、こうした動きを的確に把握・分析し、会員に出来得る限りの国際港湾の流れをお伝えするために精力的に活動して参りました。今後とも会員各位の信頼に応えられる法人として活動を続けていきたいと思っております。皆様方のご支援を宜しくお願いいたします。

ホームページの開設

この日本会議をさらに効果的な会議体にするため、ここにホームページを開設しました。維持経費のことも考え合わせ、国際港湾協会のホームページのなかに開設しております。

IAPH 活動の状況が会員相互にすばやく、わかりやすく伝わるよう、今後、このホームページの活用、メールによる情報交換、機関誌の活用などに、工夫をこらして参りたいと考えております。これらツールのご愛顧をお願いいたします。

このホームページの開設にあたっては、おおくの方からご支持とご協力をいただきました。あらためて感謝を申し上げます。

国際港湾協会日本会議会長
中尾 成邦